

絵葉書に描かれた鉄道——沿線案内 あの駅、この橋、この車両(32)

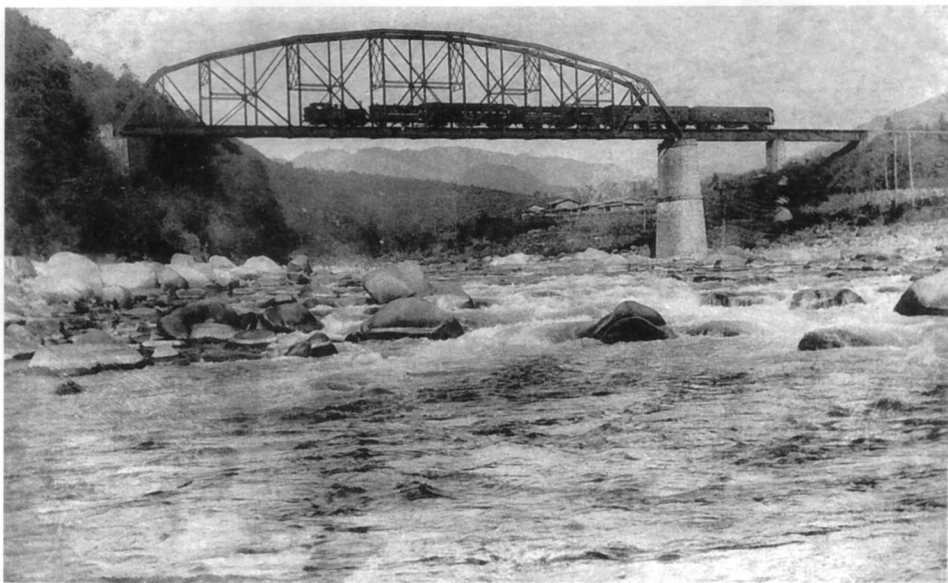
所蔵・解説 白土 貞夫

「丸い緑の山手線、真ん中通るは中央線」は某大手電器販売店のCMソングだが、東京では山手線を貫通する形で北西へ進む中央本線は、本州全体から見てもその線名のとおり「真ん中」を通過している。東西両方から線路が延びて、最後に残った宮ノ越～木曾福島間の開通によ

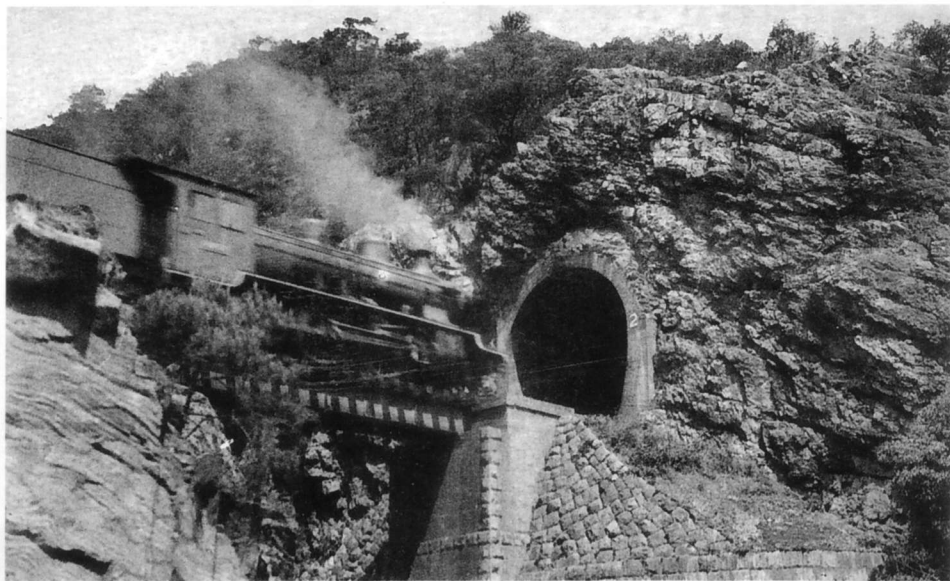
り全通したのは明治44年5月であった。しかし乗客の流れは塩尻で東西に二分されるため、中央東線、西線と呼ばれることも多く、東京～名古屋間の直通列車も現在は設定されていない。今回は木曾谷に添った西線沿線のところどころを紹介してみよう。

第二木曾川橋梁

三留野(現南木曾)～坂下間に架かる第二木曾川橋梁は明治41年アメリカンブリッジ製作の300ftピン結合曲弦分格ブラットラス。クーバーとシュナイダー両人の設計である。当時最大の支間93.3mを持ち、同一形式で同じ支間の第一木曾川橋梁、奥羽本線松川橋梁とともに当時としては破格の大形橋梁であり、雄大な姿は絵葉書にも多用された。第五木曾川橋梁と改称して現用中である。



景ノ橋鐵二第川曾木線央中



社映真園古名

車列ノ中行進ニ號貳リヨ(ルネント)號壹

(驛寺光定線央中)

定光寺2号トンネル

多治見～古虎溪一定光寺間が複線化し、ルート変更された今日では、延長2,910mの愛岐トンネルのほか4個のトンネルを潜る。以前はこの区間は渓谷に沿って9個のトンネルがあったが、画面は定光寺付近のトンネルへまさに突入する8620形機関車、撮影された昭和初期には多治見以西の主力機関車であった。旧線跡のトンネル群は経済産業省の近代化産業遺産に本年2月指定された。